

## 表情が初対面の相手に与える印象

### First Time Impressions Given by Facial Expressions

井 上 清 子\*

Kiyoko INOUE

**要旨：**大学生 100 名（男女各 50 名）、社会人 90 名（男女各 45 名）を対象に、同一人物（大学生女性）の微笑み顔（口を開けない笑い）・笑い顔（口を開けての笑い）・真顔・しかめ顔（眉間にしわを寄せた顔）の 4 種類の顔写真を呈示し、写真に抱く印象 8 項目について 5 段階で回答してもらい、各表情がどのような印象を与えるのか、また受け手の性別や年齢の違いによって抱く印象にも違いが見られるのかについて調べた。大学生・社会人とも、「笑い顔」「微笑み」などの笑顔からは、明るく親しみやすく親かな印象を受ける者が多く、笑顔が初対面の相手に好印象を与えることがわかった。一方、「しかめ顔」からは、暗く親しみづらく不親切な悪い印象を受けることがわかった。学生と社会人とでは、「しかめ顔」に対して学生の方が敏感で悪い印象を持つ者が多かった。性差では、大学生では、男性より女性の方が「笑い顔」により好感を持ち、社会人では、「しかめ顔」に対して女性の方が悪い印象を持つ者が多かった。

**キーワード：**表情、印象、初対面、笑顔

#### 1. 目 的

私たちが人とコミュニケーションをとるときに、相手の表情から受ける影響は大きい。Albert Mehrabian（1986）によると、人と人とは直接顔を合わせるフェイス・トゥー・フェイス・コミュニケーションには基本的に三つの要素がある。①言語、②声のトーン（聴覚）、身体言語＝ボディランゲージ（視覚）。そして、これら三つの要素は、メッセージに込められた意味・内容の伝達の際に占める割合が違う。彼によれば、これらの要素が矛盾した内容を送っている状況下において、言葉がメッセージ伝達に占める割合は 7%、声のトーンや口調は 38%、ボディランゲージは 55% であったと報告されている。

身体言語の一つである笑顔は、「感謝」「承諾」「許可」などの他「戦わない」「敵意を持っていない」など様々な意味を持っており、コミュニケーションの中に笑顔があるかないかは、関係を

---

\* いのうえ きよこ 文教大学教育学部

築いていく上で重要な要素となる（井上 2004）。

武川ら（2002）は視線や顔の向き、表情などのノンバーバル・コミュニケーションの変化による凝視量や印象形成について検証しており、顔の向きが斜めよりも正面に、無表情よりも笑顔に変化するときに、友好性が高いことを検証している。

吉川・中村（2003）は、相手の表情、性別、年齢の違いが話し手の発話行動にどのような影響を及ぼすかを検討した。発話行動における表情の効果の表れ方は課題状況によって変動し、比較的認知的負荷のかからない要求と質問の発話課題では、いずれも笑顔が最も発話を促進し、怒り顔は発話を抑制する表情であった。しかし、流ちょうさの指標である「言いよどみの程度」で見ると、謝罪では笑顔と怒り顔に差がなく、真顔が最も発話の流ちょうさを妨害する表情であった。また、抗議では笑顔と真顔に差がなく、怒りが最も話しかけにくい表情であった。

しかし、これらの研究では、相手の表情から受ける具体的な印象及び、受け手の性別や年齢による違いなどは明らかにされていない。本研究では、相手の表情が受け手の抱く印象にどのような影響を与えるのか、また受け手の性別や年齢の違いによって、抱く印象にも違いが見られるのかについて明らかにし、日々の教育相談はもとより、学生の初対面の人とのコミュニケーションの取り方の指導やキャリア支援など、学生指導に生かしていきたい。

## 2. 方 法

### (1) 対 象

研究の目的と方法について説明し同意の得られた大学生 100 名（男性 50 名 女性 50 名、平均年齢 19.09 歳 ± 0.91）、社会人 90 名（男性 45 名 女性 45 名、平均年齢 48.71 歳 ± 1.31）。

### (2) 手 順

同一人物（面識のない女子大学生）の微笑み顔（口を開けない笑い）・笑い顔（口を開けての笑い）・真顔・しかめ顔（眉間にしわを寄せた顔）の 4 種類の顔写真を呈示し、末田・福田（2003）の相貌特徴と印象の関連についての表から抜粋した好ましい印象を表す形容詞 8 項目について、「思わない」「あまり思わない」「どちらともいえない」「やや思う」「思う」の 5 段階で評価を求めた。人物個人の特徴による印象を緩和するために 2 人の女性の 4 種類の写真を用意し、男女半数ずつ、一方の女性の 4 種類の顔写真を提示した。また、4 種類の顔写真の提示順はランダムにした。

## 3. 結果と考察

### (1) 表情による印象の違い

4 種類の顔写真の 8 項目の印象についての得点を「思わない」1 点、「あまり思わない」2 点、「どちらともいえない」3 点、「やや思う」4 点、「思う」5 点として、8 項目の合計得点の平均と標準偏差（表 1）、印象項目ごとの平均と標準偏差（表 2～表 5）を算出した。

4 種類の顔写真で合計得点が高い順に、大学生では、「笑い顔」29.35、「微笑み」28.27、「真顔」22.66、「しかめ顔」14.50 で、社会人では、「微笑み」29.26、「笑い顔」29.00、「真顔」23.62、「し

かめ顔」16.99 と、大学生・社会人を問わず、笑顔が初対面の相手に好印象を与えることが推察された。

印象項目ごとの平均点をみると、最も好感度の高かった「笑い顔」で平均点が高かった項目は、大学生・社会人とも、「明るい」「親しみやすい」「親切的な」であった。

「微笑み」でも、「親切的な」「親しみやすい」「明るい」と、多少順番は違うものの、同じような印象項目の得点が高かった。

すなわち、笑顔からの人物からは、明るく、親しみやすく、親切的印象を受ける者が多いことがわかった。

「真顔」では、大学生・社会人とも多少順番は違うものの、「落ち着いた」「意志が強い」「自信のある」という項目の得点が高く、真顔からは、落ち着いて、意志が強く、自信があるという印象を受ける者が多いことがわかった。

「しかめ顔」では、社会人では「意志が強い」が3.17 で一番得点が高かったが、大学生では平均点が3点以上の項目はなかった。特に平均点の低かった項目は、大学生・社会人とも多少順番は違うものの、「明るい」「親しみやすい」「親切的な」で、笑顔とは反対の結果となった。すなわち、しかめ顔の人物からは、暗く、親しみづらく、不親切的悪い印象を受けると考えられた。

表1 表情による印象の違い（大学生と社会人の  $t$  検定）

表情	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
笑い顔	大学生	100	20.35	5.86	.472
	社会人	90	29	4.31	
微笑み	大学生	100	28.27	5.79	- 1.442
	社会人	90	29.26	3.45	
真顔	大学生	100	22.66	5.56	- 1.383
	社会人	90	23.62	3.97	
しかめ顔	大学生	100	14.5	5.18	- 3.473**
	社会人	90	16.99	4.65	

\*\* $p < .01$

表 2 笑顔の印象 (大学生と社会人の  $t$  検定)

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
笑顔	明るい	大学生	100	4.27	1	- .591
		社会人	90	4.36	.99	
	親しみやすい	大学生	100	4.16	1.09	- 1.25
		社会人	90	4.34	.926	
	親切的な	大学生	100	4.06	1.11	1.81
		社会人	90	3.79	.94	
	自信のある	大学生	100	3.28	1.26	- .583
		社会人	90	3.38	1.05	
	落ち着いた	大学生	100	2.83	1.23	- 1.053
		社会人	90	2.99	.83	
	素直な	大学生	100	3.76	1.2	.4
		社会人	90	3.7	.85	
	意欲的な	大学生	100	3.62	1.17	1.603
		社会人	90	3.38	.91	
	意志が強い	大学生	100	3.37	1.19	1.968
		社会人	90	3.07	.93	

表 3 微笑み顔の印象 (大学生と社会人の  $t$  検定)

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
微笑み	明るい	大学生	100	3.8	.91	- 2.452*
		社会人	90	4.08	.64	
	親しみやすい	大学生	100	3.91	1.036	- .868
		社会人	90	4.02	.734	
	親切的な	大学生	100	3.93	1.008	.658
		社会人	90	3.84	.748	
	自信のある	大学生	100	3.29	1.192	- .864
		社会人	90	3.41	.701	
	落ち着いた	大学生	100	3.5	1.193	1.118
		社会人	90	3.33	.848	
	素直な	大学生	100	3.67	1.035	- .059
		社会人	90	3.68	.762	
	意欲的な	大学生	100	3.2	1.172	- 2.145*
		社会人	90	3.51	.811	
	意志が強い	大学生	100	2.97	1.15	- 2.823**
		社会人	90	3.38	.829	

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

表 4 真顔の印象 (大学生と社会人の  $t$  検定)

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
真顔	明るい	大学生	100	1.97	.937	- .934
		社会人	90	2.09	.802	
	親しみやすい	大学生	100	1.92	.825	- 2.802**
		社会人	90	2.28	.924	
	親切的な	大学生	100	2.35	1.123	- 1.179
		社会人	90	2.52	.884	
	自信のある	大学生	100	3.24	1.357	.897
		社会人	90	3.39	.908	
	落ち着いた	大学生	100	4.09	1.093	5.045**
		社会人	90	3.37	.854	
	素直な	大学生	100	2.73	1.205	- .94
		社会人	90	2.88	.958	
	意欲的な	大学生	100	2.54	1.251	- 4.314**
		社会人	90	3.26	1.034	
	意志が強い	大学生	100	3.82	1.226	- 1.383
		社会人	90	3.9	.995	

\*\* $p < .01$ 表 5 しかめ顔の印象 (大学生と社会人の  $t$  検定)

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
しかめ顔	明るい	大学生	100	1.28	.604	- 1.479
		社会人	90	1.41	.616	
	親しみやすい	大学生	100	1.4	.682	- 2.196*
		社会人	90	1.62	.712	
	親切的な	大学生	100	1.46	.658	- 3.359**
		社会人	90	1.8	.737	
	自信のある	大学生	100	1.9	1.133	- 1.787
		社会人	90	2.19	1.09	
	落ち着いた	大学生	100	2.03	1.114	- 1.847
		社会人	90	2.31	.967	
	素直な	大学生	100	1.89	1.063	- 2.547*
		社会人	90	2.24	.825	
	意欲的な	大学生	100	1.74	.97	- 3.742**
		社会人	90	2.24	.878	
	意志が強い	大学生	100	2.8	1.676	- 1.695
		社会人	90	3.17	1.247	

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

## (2) 表情から受ける印象の性差

表情から受ける印象に性差があるかを検討するために、合計点と各項目を検定変数、性別をグループ化変数として、 $t$ 検定を行った。

### 1) 大学生の回答

各表情の合計点（表 6）では、「笑い顔」で有意に女性の方が得点が高かった ( $p<.05$ )。男性は、「笑い顔」27.84、「微笑み」27.92 とほとんど得点差がないのに対して、女性は「笑い顔」30.86、「微笑み」28.62 と「笑い顔」の方が好感度が高かった。すなわち、笑顔に対する好感度は男女とも高いが、男性より女性の方が、口を開けて笑う気取りのない同年代の同性の笑い顔により好感を持つと考えられた。

さらに、各印象項目ごとに  $t$  検定を行ったところ（表 7～表 10）、「笑い顔」では、「親しみやすい」「親切的な」( $p<.01$ )、「落ち着いた」( $p<.05$ ) の各項目において女性の方が有意に得点が高かった。すなわち、口を開けて笑う女性に対して、男性より女性の方が、親しみやすい親切的な落ち着いた人であるという印象を持つと考えられた。

「微笑み」「怒り顔」では、男女間で有意な差が見られた項目はなかった。

「真顔」では、「意志が強い」で有意差がみられた ( $p<.05$ )。男性より女性の方が得点が高かったことから、女性の方が真顔の同性に対して意志が強い印象を持つことが考えられた。

表 6 表情による印象の違い（大学生の男性と女性の  $t$  検定）

表情	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
笑い顔	男性	50	27.84	6.906	- 2.656**
	女性	50	30.86	4.116	
微笑み	男性	50	22.7	5.566	- .603
	女性	50	22.62	5.62	
真顔	男性	50	27.92	6.571	.072
	女性	50	28.62	4.923	
しかめ顔	男性	50	15	4.513	.966
	女性	50	14	5.764	

\*\* $p<.01$

表 7 笑い顔の印象（大学生の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
笑い顔	明るい	男性	50	4.27	1.061	- .298
		女性	50	4.3	.953	
	親しみやすい	男性	50	3.86	1.178	- 2.852**
		女性	50	4.46	.908	
	親切的な	男性	50	3.68	1.253	- 3.633**
		女性	50	4.44	.787	
	自信のある	男性	50	3.22	1.345	- .473
		女性	50	3.34	1.189	
	落ち着いた	男性	50	2.52	1.147	- 2.589*
		女性	50	3.14	1.246	
	素直な	男性	50	3.54	1.265	- 1.859
		女性	50	3.98	1.097	
	意欲的な	男性	50	3.54	1.216	- .682
		女性	50	3.7	1.129	
	意志が強い	男性	50	3.24	1.17	- 1.097
		女性	50	3.5	1.199	

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ 表 8 微笑み顔の印象（大学生の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
微笑み	明るい	男性	50	2.1	.991	- .878
		女性	50	1.84	.824	
	親しみやすい	男性	50	1.96	1.065	- 1.656
		女性	50	1.88	.986	
	親切的な	男性	50	2.36	1.041	- 1.703
		女性	50	2.34	.953	
	自信のある	男性	50	3.22	1.313	.083
		女性	50	3.26	1.07	
	落ち着いた	男性	50	4.06	1.12	- 1.175
		女性	50	4.12	1.258	
	素直な	男性	50	2.9	1.064	- .289
		女性	50	2.56	1.015	
	意欲的な	男性	50	2.56	1.266	.852
		女性	50	2.52	1.074	
	意志が強い	男性	50	3.54	1.199	1.132
		女性	50	4.1	1.095	

表 9 真顔の印象（大学生の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
真顔	明るい	男性	50	2.1	1.055	1.394
		女性	50	1.84	.792	
	親しみやすい	男性	50	1.96	.925	.483
		女性	50	1.88	.718	
	親切的な	男性	50	2.36	1.102	.089
		女性	50	2.34	1.154	
	自信のある	男性	50	3.22	1.314	- .147
		女性	50	3.26	1.411	
	落ち着いた	男性	50	4.06	1.132	- .273
		女性	50	4.12	1.062	
	素直な	男性	50	2.9	1.266	1.418
		女性	50	2.56	1.128	
	意欲的な	男性	50	2.56	1.28	.159
		女性	50	2.52	1.233	
	意志が強い	男性	50	3.54	1.313	- 2.335*
		女性	50	4.1	1.074	

\* $p<.05$ 表 10 しかめ顔の印象（大学生の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
しかめ顔	明るい	男性	50	1.26	.527	- .329
		女性	50	1.3	.678	
	親しみやすい	男性	50	1.42	.731	.292
		女性	50	1.38	.635	
	親切的な	男性	50	1.54	.676	1.219
		女性	50	1.38	.635	
	自信のある	男性	50	2.1	1.165	1.785
		女性	50	1.7	1.074	
	落ち着いた	男性	50	2.04	1.068	.089
		女性	50	2.02	1.169	
	素直な	男性	50	1.88	1.003	- .094
		女性	50	1.9	1.129	
	意欲的な	男性	50	1.82	0.919	.823
		女性	50	1.66	1.022	
	意志が強い	男性	50	2.94	1.695	.834
		女性	50	2.66	1.661	

## 2) 社会人の回答

各表情の合計点（表 11）では、「しかめ顔」で有意に女性の方が得点が低く（ $p<.01$ ）、社会人では若い女性のしかめ顔に対して同性の女性の方が敏感で悪い印象を持つと考えられた。他の 3



つの表情では有意差はみられなかった。

さらに、各印象項目ごとにt検定を行ったところ（表12～表15）、「笑い顔」では、有意差がみられた項目はなかった。

「微笑み」では、「明るい」で女性の方が有意に得点が高かった（ $p<.05$ ）。男性より女性の方が、微笑む女性に対して「明るい」という印象を持つと考えられた。

「真顔」では、有意差がみられなかった。

「しかめ顔」では、「親しみやすい」（ $p<.01$ ）、「親切的な」「落ち着いた」（ $p<.05$ ）で有意差がみられた。いずれも3点未満で、男性より女性の方が得点が低かったことから、女性の方がしかめ顔の同性に対して親しみづらく不親切で落ち着かない印象を持つことが考えられた

一般に女性は男性に比べ、感情表現が豊かである（Dimberg 1997, Schwartz 1980）という報告があるが、感情の受け手としても敏感であることが本研究から推察された。

表 11 表情による印象の違い（社会人の男性と女性のt検定）

表情	属性	N	平均値	SD	t 値
笑い顔	男性	40	29.58	3.634	1.275
	女性	40	28.42	4.873	
微笑み	男性	40	29.02	3.98	- .64
	女性	40	29.49	2.841	
真顔	男性	40	24.18	4.239	1.335
	女性	40	23.07	3.633	
しかめ顔	男性	40	18.27	4.979	2.698**
	女性	40	15.71	3.946	

\*\* $p<.01$

表 12 笑い顔の印象（社会人の男性と女性のt検定）

表情	印象	属性	N	平均値	SD	t 値
笑い顔	明るい	男性	40	4.49	.92	1.287
		女性	40	4.22	1.042	
	親しみやすい	男性	40	4.53	.757	1.966
		女性	40	4.16	1.043	
	親切的な	男性	40	3.96	.852	1.696
		女性	40	3.62	1.007	
	自信のある	男性	40	3.33	.769	- .402
		女性	40	3.42	1.27	
	落ち着いた	男性	40	2.96	.737	- .38
		女性	40	3.02	.917	
	素直な	男性	40	3.82	.86	1.364
		女性	40	3.58	.839	
	意欲的な	男性	40	3.33	.853	- .463
		女性	40	3.42	.965	
	意志が強い	男性	40	3.16	.824	.902
		女性	40	2.98	1.033	

表 13 微笑み顔の印象（社会人の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
微笑み	明るい	男性	40	3.93	.78	- 2.186*
		女性	40	4.22	.42	
	親しみやすい	男性	40	3.91	.763	- 1.445
		女性	40	4.13	.694	
	親切な	男性	40	3.78	.735	- .844
		女性	40	3.91	.763	
	自信のある	男性	40	3.4	.654	- .149
		女性	40	3.42	.753	
	落ち着いた	男性	40	3.33	.853	0
		女性	40	3.33	.853	
	素直な	男性	40	3.76	.743	.968
		女性	40	3.6	.78	
	意欲的な	男性	40	3.51	.815	0
		女性	40	3.51	.815	
	意志が強い	男性	40	3.4	.915	.253
		女性	40	3.36	.743	

\* $p<.05$

表 14 真顔の印象（社会人の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
真顔	明るい	男性	40	2.2	.694	1.319
		女性	40	1.98	.892	
	親しみやすい	男性	40	2.31	.874	.34
		女性	40	2.24	.981	
	親切な	男性	40	2.58	.917	.596
		女性	40	2.47	.855	
	自信のある	男性	40	3.47	1.014	.811
		女性	40	3.31	.793	
	落ち着いた	男性	40	3.31	.925	- .615
		女性	40	3.42	.783	
	素直な	男性	40	3	1.044	1.214
		女性	40	2.76	.857	
	意欲的な	男性	40	3.31	.949	.508
		女性	40	3.2	1.12	
	意志が強い	男性	40	4	.953	.953
		女性	40	3.8	1.036	

表 15 しかめ顔の印象（社会人の男性と女性の  $t$  検定）

表情	印象	属性	$N$	平均値	$SD$	$t$ 値
しかめ顔	明るい	男性	40	1.51	.727	1.552
		女性	40	1.31	.468	
	親しみやすい	男性	40	1.8	.726	2.432*
		女性	40	1.44	.659	
	親切的な	男性	40	2	.769	2.659**
		女性	40	1.6	.654	
	自信のある	男性	40	2.38	1.093	1.66
		女性	40	2	1.066	
	落ち着いた	男性	40	2.53	.944	2.227*
		女性	40	2.09	.949	
	素直な	男性	40	2.31	.848	.765
		女性	40	2.18	.806	
	意欲的な	男性	40	2.4	.915	1.698
		女性	40	2.09	.821	
	意志が強い	男性	40	3.33	1.225	1.272
		女性	40	3	1.261	

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ 

### (3) 学生と社会人の表情から受ける印象の差

学生と社会人とで、表情から受ける印象に差があるかを検討するために、各項目の点数と合計点を検定変数、属性（大学生・社会人）をグループ化変数として、 $t$  検定を行った。

各表情の合計点（表 1）では、「しかめ顔」で有意に学生の方が得点が低く（ $p<.01$ ）、しかめ顔に対して学生の方が敏感で悪い印象を持つと考えられた。社会人になるとしかめ顔の人物に会う経験も多くなり、慣れてくると、どの表情にも何か理由があるのではないかと考えられるようになるため、社会人の方が学生に比べて、しかめ顔の印象が悪くならないのではないかと推測された。

他の 3 つの表情では有意差はみられなかった。

さらに、各印象項目ごとに（表 2～表 5） $t$  検定を行ったところ、「笑い顔」では、有意差がみられた項目はなかった。

「微笑み」では、「明るい」「意欲的な」（ $p<.05$ ）「意志が強い」（ $p<.01$ ）で有意差がみられ、いずれも社会人の方が得点が高かった。学生より社会人の方が、微笑む女性に対して明るく意欲的で意志が強いという好印象を持つと考えられた。

「真顔」では、「親しみやすい」「落ち着いた」「意欲的な」（ $p<.01$ ）で有意差がみられた。「親しみやすい」「意欲的な」では社会人の方が得点が高く、「落ち着いた」は学生の方が得点が高かった。すなわち、学生は社会人よりも、真顔の女性に対して、落ち着いているが親しみにくく意欲的ではない印象を持ちやすいことが考えられた。

「しかめ顔」では、「親切的な」「意欲的な」（ $p<.01$ ）、「親しみやすい」「素直な」（ $p<.05$ ）で有意差がみられた。いずれも 3 点未満で、社会人より学生の方が得点が低かったことから、学生の方

がしかめ顔の女性に対して親しみづらく不親切で意欲的でなく素直でない印象を持つことが考えられた

#### (4) 今後の課題

今回は、20代の女子大生の表情の違いに対する印象を調べたが、違う年代の女性や男性の表情の違いについても今後調べていきたい。また、大学生と社会人とを回答対象者としたが、年齢が大学生では20歳前後が多く、社会人では50歳前後が多かったため、両者の差異は、属性による違いというよりは年齢による違いとも考えられた。今後は、対象者を増やし、各年齢層の対象者の受ける印象の異同についても検討していきたい。

#### 4. まとめ

表情が初対面の人に与える印象について、大学生100名（男性50名 女性50名、平均年齢19.09歳±0.91）、社会人90名（男性45名 女性45名、平均年齢48.71歳±1.31）を対象に、同一人物（面識のない女子大学生）の微笑み顔（口を開けない笑い）・笑い顔（口を開けての笑い）・真顔・しかめ顔（眉間にしわを寄せた顔）の4種類の顔写真を呈示し、写真に抱く印象8項目について5段階で回答してもらい、各表情が相手にどのような印象を与えるのか、また受け手の性別や年齢の違いによって抱く印象にも違いが見られるのかについて調べた。

大学生・社会人を問わず、「笑い顔」「微笑み」などの笑顔からは明るく、親しみやすく、親切的な印象を受ける者が多く、笑顔が初対面の相手に好印象を与えることがわかった。「真顔」からは、落ち着いて、意志が強く、自信があるという印象を受ける者が多かった。一方、「しかめ顔」の人物からは、暗く、親しみづらく、不親切な悪い印象を受けると考えられた。

性差では、大学生では、男性より女性の方が、口を開けて笑う気取りのない同年代の同性の「笑い顔」により好感を持ち、社会人では若い女性の「しかめ顔」に対して同性の女性の方が敏感で悪い印象を持つという結果が得られた。また、学生と社会人とは、「しかめ顔」に対して学生の方が敏感で悪い印象を持つという結果が得られた。

#### 引用文献

- Mehrabian, A. (1972) Nonverbal communication. Aldine-Atherton, Chicago, 西田司他共訳（1986）非言語コミュニケーション, 聖文社.
- Dimberg, U 「Facial Reactions Rapidly Evoked Emotional Responses」 Journal of Psychophysiology, Vol. 11, No. 2, pp 115-123, 1997.
- 井上宏 「笑い学のすすめ」 世界思想社, 2004.
- 永田明徳 (2008) 顔とノンバーバルコミュニケーション, 電子情報通信学会誌 91(2), 142-146.
- Schwartz, G. E., Brown, S.-L. and Ahern, G.L. 「Facial Muscle Patterning and Subjective Experience During affective Imagery: Sex Difference., Psychophysiology, Vol.17, No.1, pp75-82, 1980.
- 吉川左紀子・中村真 (1997) 顔・表情の違いによる発話行動の調整, 電子情報通信学会論文誌, 1324-1331.